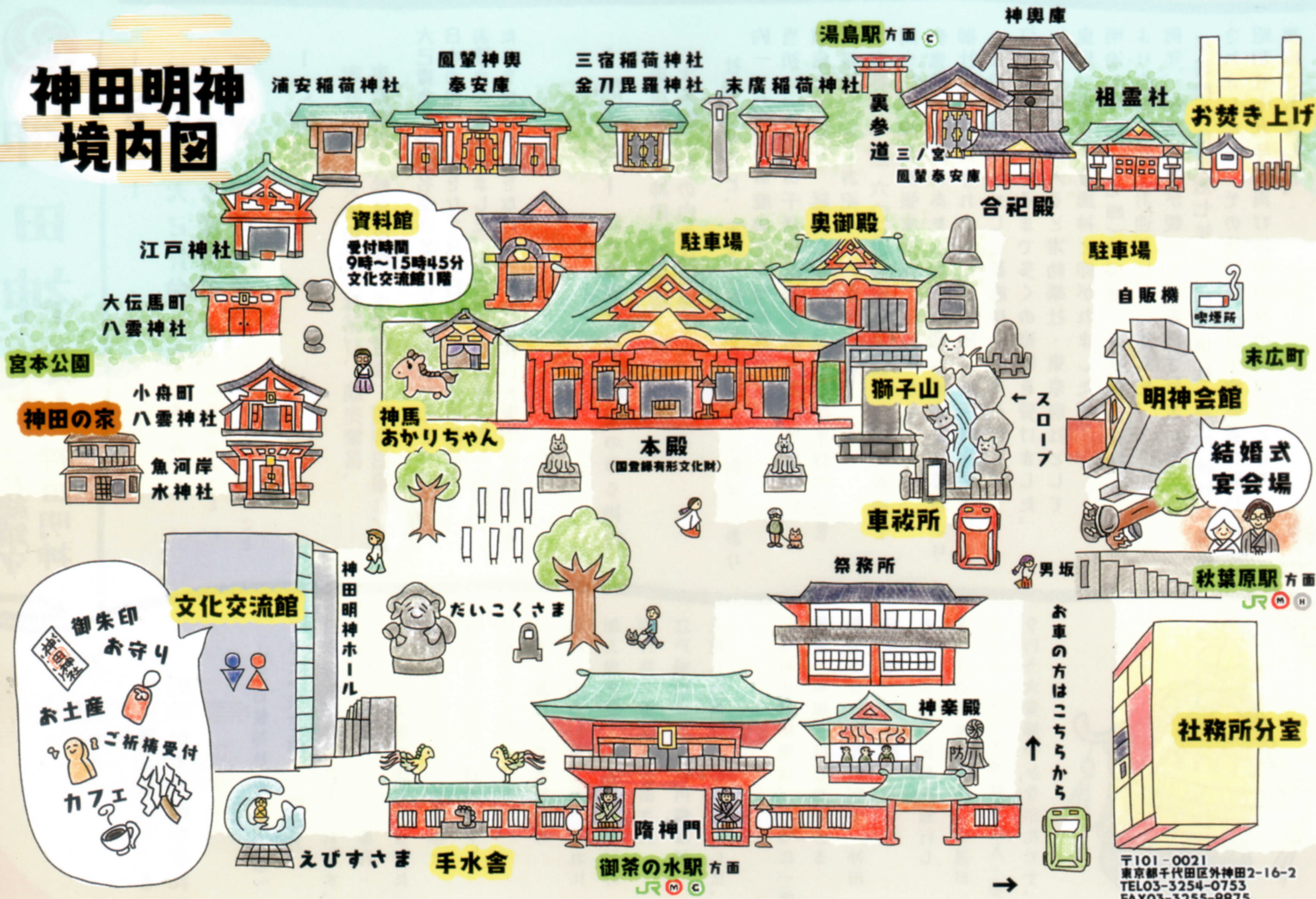


神田明神 境内図



〒101-0021
東京都千代田区外神田2-16-2
TEL03-3254-0753
FAX03-3255-8875



神田神社

江戸総鎮守
神田明神

―ご祭神―

- 一の宮 大己貴命 おおなむちのみこと
- 二の宮 少彦名命 すくなひこなのみこと
- 三の宮 平将門命 たいらのまさかどのみこと

―ご神徳―

家庭円満、夫婦和合、縁結び、高売繁昌、
事業繁栄、除災厄除、医薬健康、開運招福など

大己貴命と少彦名命はともに力を合わせ心一つに日本の国づくりをなされ、日本人の生活の基礎をお築きになられました。平将門命は悪政に苦しむ庶民たちを自らの命をなげうって守り抜いた東国の英雄です。

―御由緒― 江戸東京で最も歴史のある神社

東京都心―神田、日本橋、秋葉原、
大手町・丸の内氏神様です。

社伝によると、天平二年(七三〇)にご創建とあり約一三〇〇年の歴史を持つ神社です。

当初は、現在の千代田区大手町の将門塚周辺に鎮座しており、延慶二年(一三〇九)に平将門公をご祭神としてお祀りいたしました。

慶長八年(一六〇三)徳川家康公が江戸に幕府を開き江戸城を拡張する際、江戸城から

表鬼門の位置にあたる現在の地へ遷座し、幕府より御社殿が造営されました。以降、江戸時代を通じて

「江戸総鎮守」として幕府はもちろんのこと江戸庶民にいたるまで多くの崇敬を受けました。

明治時代に入ると准勅祭社・東京府社として皇居・東京の守護神と仰がれました。

明治七年(一八七四)茨城県・大洗磯前神社より少彦名命をお迎えいたしました。

同年、明治天皇が親しくご参拝されました。平将門命は明治七年に一時、摂社・将門神社に遷座されましたが、その後神職・氏子崇敬者の願いにより昭和五十九年、再び神田明神の三の宮として復座されました。

神田祭

江戸東京を代表する
賑やかにて壯観な祭礼

山王日枝神社の「山王祭」とともに、天下祭と呼ばれ

日本三大祭にも数えられます。江戸の昔より、徳川幕府・江戸っ子の厚い崇敬を受けたことから天下祭・御用祭と称えられ神田・日本橋を中心とする町々より三十六番四十五本前後の勇壮な山車が出され、それに加え曳き物・仮装行列などの附け祭や御雇祭も出され江戸城内に入り徳川將軍が上覧した由緒ある祭礼でした。

今日の神田祭は、二年に一度鳳輦・神輿をはじめとする賑やかな大祭礼行列が、神田日本橋・秋葉原・大手町丸の内の氏子区域を巡行し各氏子の町神輿約二〇〇基が担がれ、次々と神社へ宮入・参拝を行う大変賑やかな祭礼です。



神田明神
創建1300年